

ピグマリオン効果・ゴーレム効果



教育心理学者ロバート・ローゼンタールによって、サンフランシスコの小学校で行われた実験。担任の教師に対し、今後成績が向上する生徒を割り出すためという趣旨の説明をして知能テストを実施した。しかし、実は、知能テストとは無関係に抽出した生徒の名簿を作成し、それを担任に見せて、今後成績の向上が期待される生徒であると伝えた。その結果、担任はその生徒に期待する等した結果、実際に一部の生徒の成績が向上した。

また、成績の良い生徒を集めたクラスと、成績の悪い生徒を集めたクラスをつくり、成績の良いクラスを担当する教師には「このクラスは成績が悪い」と伝え、成績の悪いクラスを担当する教師には「このクラスは成績が良い」と伝えたところ、もともと成績の良かったクラスの成績は低下し、反対に成績の悪かったクラスは成績が上昇した。

(注意：この実験には批判・異説もありますので、あくまで参考程度とすることを推奨します。過度の期待や働きかけは逆効果の可能性もあり、適度なバランスや、他の様々な方法・アイデアの検討、試行錯誤、トライアルアンドエラーを推奨します)

